

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2392500654 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 幸寿会 | | |
| 事業所名 | グループホームさくらいふ六軒屋 ユニットA | | |
| 所在地 | 愛知県春日井市六軒屋町西3丁目13番地27号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年8月26日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年1月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy-osyoCd=2392500654-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人『サークル・福寿草』 | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年9月11日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>利用者様が一日一日楽しく、穏やかに笑顔で過ごしていただける様にレクリレーション等を行っている。 季節の壁紙を 作成して頂き 春夏秋冬を感じて頂く。 訪問診療、訪問看護、訪問歯科、薬局との連携を密にして 医療面での補佐を行っている。 毎日、バイタル、血中酸素飽和濃度を測定している。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>当事業所は、グループホームの他にも、小規模多機能型事業所及びサービス付き高齢者向け住宅を併設して運営していることで、利用者や家族の様々なニーズに合わせた支援が行われていることが特徴でもある。医療面での支援についても協力医や訪問看護との連携を深めながら、利用者の健康状態に合わせた柔軟な支援が行われており、身体状態の重い方もホームでの生活を継続している。利用者のホームでは、利用者が日常的にホームから外出することができるように様々な検討が行われており、現状の感染症問題が続いている中でも利用者がホームの外に出ることができるような支援が行われている。また、職員間での検討を重ねながら、日常生活の中でもレクリエーションの取り組みを増やしており、利用者の生活が単調にならないような取り組みが行われている。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|------------------------------|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 努めている。 | 開設時につくっている理念をホームの支援の基本に考えており、ホーム内に理念を掲示する取り組みも行われている。管理者からも日常の支援を通じて職員にも理念を意識してもらうような働きかけも行われている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 考え、可能な範囲で行っている。 | 感染症問題が長期化する中で、ホームから地域の方への働きかけ等が困難になっており、現状で可能な範囲での交流となっている。日常的にホームから外に出る機会をつくっており、近隣の方との挨拶等につなげている。 | ホームの開設から間もない時期に感染症問題が起きたこともあり、地域の方との交流が進んでいない状況でもある。今後の感染症の状況もみながら、可能な範囲から近隣の方との交流が深まることを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | できていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 共有し努めている。 | 会議については、感染症の状況をみながら実施しており、現状で可能な範囲で会議を実施している。また、併設事業所とは別に会議を実施しており、出席者には当ホームの状況を知ってもらう取り組みが行われている。 | 感染症問題が起きたことで、会議の開催が中断している状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、会議の開催が行われることを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | できていない。 | 現状、外部の方との交流が困難になっているが、市内の介護事業所が集まる連絡会や研修会等に参加する機会をつくり、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、併設事業所を通じた関係部署との情報交換も行われている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 研修や委員会活動により理解し拘束の無いケアが出来ている。 | 身体拘束を行わない方針で支援が行われており、日常的にホームから外に出る機会をつくる等、圧迫感を感じない生活環境をつくる取り組みが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修も行われている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 研修、情報の共有により虐待もない。防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|----------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 施設にて学ぶ場はないが、必要な時に情報収集している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 対応を管理者に統一している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 出来ている。 | 感染症問題が続いていることもあり、家族との交流は限られた範囲となっているが、運営推進会議の案内文書に意見・要望欄を設ける等、家族からの要望等の把握に取り組んでいる。また、毎月のホーム便りの作成も行われている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 出来ている。 | 毎月の職員会議が行われており、職員から管理者に出された意見等については、運営法人の会議等にも報告され、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員間で役割分担を行いながら、職員一人ひとりからの意見等の把握も行われている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 出来ている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 出来ている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 出来ている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 努めている。積極的に声をかけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 努めている。話をうかがい対応している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 努めている。放置せず対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | ”介護される一方の立場”とは考えていないが、“暮らしを共にする者同士の関係”を強く意識できていなかった。改善が必要。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 努めている。情報共有している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 可能な(コロナ)範囲で行えている。 | 感染症問題が続いていることもあり、外部の方の訪問が困難になっているが、感染症問題が起こる前は入居前からの関係の方の訪問もあり、交流につながっている。また、家族との外出も困難になっているが、可能な範囲での交流が続けられている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 努めている。出来ているが、まだ出来ると思う。他職員と話し合いや共有していきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | していきたい。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | しているが、もっと柔軟に対応していきたい。取り入れられるよう考えていきたい。(意向を) | 職員と計画作成担当者が利用者の意向等の把握を行い、職員間で情報を共有する取り組みが行われている。また、定期的なカンファレンスも行われており、職員間で利用者の意向等の検討を行い、日常の支援につなげる取り組みが行われている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 情報の収集が出来るようカルテ、本人様、必要であれば、ご家族様に聞く等対応している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 努めている。職員間の共有、記録、観察、声掛けしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 努力しているが、知識を深めもっとよいものを作っていくたい。 | 介護計画は1年での見直しとなっているが、毎月の支援内容に関するチェックが行われており、定期的なモニタリングにつなげている。また、利用者一人ひとりに合わせた記録用紙を用意し、介護計画の内容に合わせた支援につなげている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 出来ている。個人記録、日報、ひやりはつとを活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | その時々で対応できるよう努めている。職員間で話し合い対応している。しかし、もっと柔軟に対応できるよう考えたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 医療や訪看等活用している。地域との関りを増やせるよう考えたい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 管理者の対応により出来ていると思う。 | 協力医療機関とは、利用者一人ひとりに合わせた訪問診療が行われており、利用者の健康状態に合わせた医療面での柔軟な対応が行われている。また、訪問看護による支援も行われており、協力医との連携等につなげている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 積極的に行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 退院後、入院時の様子や疑問点があれば、病院にうかがっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 管理者により対応している。情報を共有できている。 | 身体状態が重い方もホームでの生活を継続することができるように支援体制がつけられているが、現状、看取り支援は行われていない。利用者の段階にも合わせながら家族との話し合いを行い、一人ひとりに合わせた支援の検討が行われている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 全ての職員に知識があるかは疑問だが、対応できるよう話し合いや、マニュアルを掲示している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 避難訓練をしている。避難場所の共有が出来てる。 | 年2回の避難訓練が行われており、ホーム単独での訓練の実施や関連事業所とも連携した訓練の取り組みも行われている。また、地域の方との協力関係や備蓄品の確保については、段階的に進めている状況でもある。 | 地域の方との協力関係づくりについては、感染症問題があることで困難な状況が続いているが、今後に向けて、徐々に協力関係が深まることを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 意識している。申し送りの際や利用者様の会話時にも配慮している。 | 職員が利用者に対して笑顔で接することができるように、職員による対応で管理者が気になった際には、注意を促したり手本を見せる等の取り組みが行われている。また、職員の接遇に関する職員研修の取り組みも行われている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 様子を観察し、声かけを行っている。コミュニケーションがとれるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | できるだけそうしている。難しい事もあるため、その都度話し合いが必要。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 衣類は、利用者様の着たいものを用意している。一緒に選んでいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | している。必要以上にきざみ等の対応をしない様心がけている。 | 食事については、外部業者も活用しながら提供が行われているが、毎週金曜日の昼食については、食材の買い物を行い、職員により調理が行われている。おやつ作りの取り組みや利用者も片付け等に参加する機会がつけられている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 個人個人の対応ができています。申し送りし、情報共有している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 出来ている。本人様に磨いて頂き、必要な場合、磨きなおしている。場合により歯科へ連絡している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。 | 行っている。見直しもしている。 | 利用者の排泄状態の記録を残し、職員間で日常的に排泄に関する情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えた支援を行いながら、排泄に関する医療面での連携も行われている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 運動する機会(散歩・レク)を作っているが足りないとも思う。食事の工夫もしているが、なかなかうまくいっていない。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。 | 曜日・時間は決まっているが、訴えがあれば対応できるようになっている。 | ホームでは、利用者が1日おきの週3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方についても声かけを行いながら、定期的な入浴につなげる取り組みが行われている。また、季節に合わせた入浴も行われており、利用者の楽しみにつなげている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | エアコンの温度や布団などに配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 勉強する必要がある。薬剤情報はすぐみえる場所に保管している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 読書やもの作りなど、ご本人様にあったレクができる様に考えているが、努力が必要である。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | コロナの為、外出は出来ないが、散歩や畑、屋外でのレクを行っている。コロナが落ち着けば、買い物等に出かけたい。 | 感染症問題が続いていることで利用者の外出が困難になっているが、ホームでは日常的にホームの近隣を散歩する等、利用者の外出の機会をつくっている。また、職員のアイデアも採用しながら近隣の川へ山菜取りに出かける機会もつくっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 家族管理だが必要な時は連絡している。できるようになっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 希望時はできるよう対応している。難しい場合は、こちらで連絡している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | レクリエーションにて季節の作品を作っている。感じていただけていると思う。 | ホーム内は広めの空間が確保されており、採光にも優れていることで、利用者が日中の時間を明るい雰囲気でも過ごすことができる生活環境が確保されている。また、ホームの庭には畑がつくられており、季節に合わせた野菜類がつくられている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 席の工夫や居室内も危険な物は取り除くが、本人様の物を置いたり、環境づくりをしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 出来ている。 | 居室については、利用者や家族の意向等にも合わせて好みの物等の持ち込みがされている方やシンプルな雰囲気の居室の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。居室にはベッドが設置されており、現状、全員の方がベッドで生活している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 安全に生活できるように考えている。 | | |